



## 「ハイブリッド・エコ・ハートQ住宅の科学」③ 水分・湿度・空気線図・環境編

1・2pの紹介

九州住環境研究会では、左写真の「ハイブリッド・エコ・ハートQ」③水分・湿度・空気線図・環境編の他、住宅に関連する環境について、4分冊の小冊子を発刊しております。住宅建築は、単に住宅を建てればよいというわけではなく、断熱性能などさまざまな数値によって性能管理が行われています。住宅の性能には、明確な基準があり、素材の採用や施工方法にも明確な根拠があります。それを項目毎にまとめたのが上記の小冊子です。これから順次、抜粋してご紹介致しますが、本冊子に興味のある方は、電話・インターネット等でお申し込み頂ければ差し上げます。

# 本物の住宅を建てる為の基礎知識。

## 2020年の「省エネルギー基準」義務化は、どうして必要なのか？

### ◎地球環境の保全是地球の生命、全体が生き残るために必要な最低条件。

人類は【衣・食・住】が安定して得られる場所に「棲み家」（すみか）を造りました。エコロジーとはこの「棲み家」を成立させる、論理と仕組みを究明する学問です。自然を尊重し、自然と共に生きた狩猟採集の時代は、エコシステム（生態系）が最も良く守られていました。我が国の縄文時代は各地域で発掘される貝塚などから、遠浅の海の恵みが豊富で1万年以上に渡って狩猟採取の時代が続き、他の国々では移動が常態の狩猟採取の時代にも係わらず、採取した魚貝類など、海の恵みが長期間の定住を可能にしました。縄文時代の住居は茅葺き屋根を縦穴に掛けた構造で、断熱性や通気性にも優れた、かなり高度な住宅が造られていました。狩猟採取の時代は精神的な時代だとすると、その後の農耕から、人間は「エコロジー」のキャパシティーを越える生産の時代を迎え、農耕から牧畜、酪農、そして産業革命へと文明を一直線に進化させてきました。今、我々人類に求められているのは、破滅に向かう地球環境を検証して、地球のあり方をもう一度、問い直す事なのかも知れません。



写真.1



### ●エコロジーと共に生きた縄文時代



写真.2

### ◎「エコロジー」を考えて建てる住宅は、省エネルギーで快適になります。

住宅を建てるということは「棲み家」や「家庭」を造ることですから、「エコロジー」（生態学）とは切り離せないと共に、「エコロジー」という地球環境の保全を考えない住宅は、自分本位の危険な住宅にもなりかねません。住宅は周囲の悪影響に左右されること無く、家族を守る「棲み家」であることを理想とします。現在、環境問題に苦しんでいる国々のように、周囲の「エコロジー」が劣悪な環境に住宅を建てた場合、その環境から逃げ出すことは出来ません。どんなにお金を掛けた住宅でも、家族の健康や住宅そのものの、長期的な寿命も守りきれません。身の回りの「エコロジー」を考えなければ、地球は壊滅してしまいます。「エコロジー」を考えた住宅は、建て主に「省エネルギー」という恩恵と「健康住宅」という価値を与えてくれ、決して損をすることのない住環境を創ります。

## 温暖化に苦しむ現在の地球環境も、人類の英知の結集で再生可能？

### ◎「バタフライ効果」・「風が吹くと桶屋が儲かる」？

バタフライ効果とは、気象学者のエドワード・ローレンツ（アメリカ）による、力学系の「予測困難性」を意味する寓意的な言葉です。要約すると「アマゾンで羽ばたいた蝶の羽ばたきが、アメリカでは巨大ハリケーンになるか？」という、気象のコンピュータ予測の不可能性を語った言葉です。これを環境問題に置き換えれば、ほんの些細な事からでも関連すれば、全く異なる事態を招くという意味でも使われます。日本ならば「風が吹くと桶屋が儲かる」の寓話【風が吹くと眼病者が増えて、三味線奏者が多くなり、三味線の胴に使う猫の皮のため猫狩りが行われ、ネズミが増えて桶をかじるので、風が吹けば桶屋が儲かる】と言うことになります。地球の環境は、些細な事で関連し合い「エコロジー」の何か一つでもバランスを崩すと、何処かにひずみが来るという寓意です。アメリカで頻発する巨大ハリケーンも、温暖化による気候システムの狂いから生じているのは明らかです。

### ◎海の再生は1本の木の植林から、地球環境保全は1軒の高性能住宅から？

震災後の海焼けで魚も貝も捕れなくなった海の再生のため、山に木を植えエコロジーの再生を図った「北海道の奥尻島や宮城県の特産漁民」は、山に植えた広葉樹の数が増えるほど、海が豊かに再生することを経験しました。地球環境もエネルギーを消費し続ける「住宅」をZEH「ゼロ・エネルギー・ハウス」等を採用して、高性能化することが地球環境再生の1歩になります。

